

会議の名称	令和8年度 韮崎市民俗資料館運営審議会				
開催日時	令和8年7月30日(木) 15時30分から				
開催場所	韮崎市役所 別館301会議室				
出席委員	9名	影山・飯野・新津・北川・近藤・長田・保坂・河西・内藤			
事務局ほか	5名	韮崎市教育委員会教育長 堀川・課長 望月・副主査 渋谷 ・副主査 半澤・民俗資料館学芸員 村松			
公開区分	☒ 公開	☐ 一部公開	☐ 非公開	傍聴人数	0人
次第	1 委嘱状交付 2 教育長あいさつ 3 会長・副会長選出 4 会長あいさつ 5 議事 (1) 令和6年度・令和7年度の事業報告について (2) 本年度の事業計画案について (3) その他 ・ニラノメ事業(ソフト事業)に関わる現状と課題について 6 その他				
議事要旨	1 委嘱状の交付 2 教育長のあいさつ 3 会長・副会長の選出 会長に影山氏、副会長に飯野氏を選出。 4 会長のあいさつ 5 議事 (1) 令和6年度・令和7年度の事業報告について ・入館状況 令和6年度の入館者数は9,476人(市内475人、県内508人、県外8,493人)で、館外事業参加者410人を含めると9,886人となった。予約団体の来館は7件、解説依頼は3件であった。令和7年度の入館者数は11,642人(市内550人、県内609人、県外9,400人)、館外事業参加者は295人で、予約団体は16件、解説依頼は8件、百名城印持ち帰り788人を新たに含めた人数となり、入館者・団体利用ともに増加した。県外からの来館が大半を占めている。 ・展示・資料管理				

議事要旨	<p>両年度ともひな人形展を開催したほか、鏡に着目した展示や、蔵座敷・展示室を活用した展示を実施した。収蔵資料の状態確認、寄贈希望資料の調査・受入れ、個人所蔵の古文書等の調査を継続した。令和 7 年度からは、紙で管理してきた民俗資料台帳の電子データ化・分類整理に着手した。</p> <p>・教育普及・連携事業</p> <p>勾玉づくり、土偶づくり、耳飾りのネックレスづくり、だるまづくりなどの体験教室を開催。小学校 3 年生の昔の道具学習、学校の職場体験、博物館実習、児童センターへの出張講座、親子での縄文土器づくりなどを実施した。県立博物館等との連携イベント、にらみんで秋まつり、土偶御朱印帳、続日本 100 名城スタンプ、縄文の旅スタンプラリー、お城エキスポなどにも参加した。</p> <p>なお資料館のオリジナルグッズ等の売上は、令和 6 年度が約 106 万円、令和 7 年度が約 133 万円と増加している。</p> <p>・寄贈資料の受入れ</p> <p>蔵の整理等に伴う調査依頼は年間 4～5 件程度あり、寄贈の相談も多い。収蔵スペースに制約があるため、原則として寄託は受けず、寄贈についても資料の選別等に理解を得た上で対応している。収蔵庫、駐車場のプレハブ、ニコリ地下の一部などを活用して保管し、順次データベース化している。</p> <p>・県外来館者の増加について</p> <p>新府城が「続日本 100 名城」に選定され、資料館にスタンプが設置されていることが大きい。土偶関連の広域連携事業も来館につながっている。周知には市ホームページ、公式 LINE、ブログ、報道機関等を活用している。</p> <p>(2) 本年度の事業計画案について</p> <p>展示事業として、ひな人形展の開催、行灯を中心とした明かりのコーナー展示の充実を進める。土偶づくり・勾玉づくり・風鈴づくり等の体験講座を実施する。甲斐ミュージアムネットワークによる夏休み関連イベントにも参加し、110 人が参加。</p> <p>収蔵資料の点検、撮影、計測、台帳の電子データ化を継続し、将来的なウェブ公開も見据えて整理を進める。他館への資料貸出しや、児童センターへの出張講座、市内外の小学校の昔の道具学習への対応を行う。</p> <p>施設管理では、老朽化が進む「花子とアン」のロケセット、蔵座敷、水車などを日常的に点検している。展示物の地震対策については、一部をテグスで固定しているものの、大型の民具や露出展示品の安全確保が課題となる。施設や展示物の安全性について、点検・応急的な補修の状況については、安全を最優先とし、懸念が生じた際には文化財担当職員へ報告し対応を検討する。</p> <p>(3) その他</p> <p>・ニラノメ事業(ソフト事業)に関わる現状と課題について</p> <p>資料館の老朽化や市の文化財保存・活用に関する課題を踏まえ、「ニラノミュージアム</p>
------	---

議事要旨	<p>基本計画」を策定した。計画は民俗資料館の単純な建替えにとどまらず、新府城跡のガイド機能、埋蔵文化財の整理・保管場所など、市全体の課題に対応する計画である。</p> <p>施設整備の進捗や具体像については、基本構想・基本計画まで策定しているものの、施設規模や整備時期は未定である。そのため計画を今後の具体化につなげていくことが重要である。</p> <p>文化財の魅力を伝える取組として、勾玉・土器づくり、歴史再発見ウォーク、徳島堰ウォーク、お城エキスポでの情報発信、市独自のカードゲーム「めざせ！ブンカザイハンター」などがある。市民・民間主体の活動を文化財の視点から支援する「夢響動活動」では、古写真を使ったまち歩き・まちの歴史に関する企画、トラクターにお絵かきワークショップ、野生動物の痕跡探しなどを実施している。</p> <p>これらの取組は、歴史や民具を現代の暮らし、農業、自然体験等と結び付け、市民の主体的な学びにつなげることを目指している。</p> <p>6 その他</p> <p>(1) 委員からの主な意見・提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・学校とのつながり <p>県外来館者が多い一方、地元の方が資料館に足を運ぶ機会は限られている。公民館活動等を通じて地域の歴史や文化財を市民と共有し、生涯学習につなげることが重要である。また、中学生の見学・学習機会の充実や、授業における民具・水車等の紹介について検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型事業の意義 <p>トラクターを題材とした活動では、昔の農具と現代の農業機械を比較することで新たな気づきが生まれたとの報告があった。また、野生動物の痕跡探しを通じて、資料館が資料の展示する場としてだけでなく、市民が講師となり、自らの知識や経験を伝えられる「一次体験」の場として機能している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信・観光・商品開発 <p>文化財を分かりやすく伝える工夫や、写真などを用いた事業説明の必要性が指摘された。金精軒と連携した縄文デザインの菓子企画については、期間限定の取組で好評だったこと、再実施の意向はあるものの、商品化・継続販売は民間事業者の採算判断となる。子ども・若者の発想を取り入れた地域土産の開発や、菰崎らしい商品を定着させることの必要性がある。海外からの来館者もいることから、英語による案内・ガイド等の必要性がある。</p>
------	--